

インドネシア中央ジャワにおけるスーフィズムの展開

—クドゥス市のスーフィズム実践を中心として—

平成 25 年入学

派遣先国：インドネシア

山本 直輝

キーワード スーフィズム、スーフィー聖者、ハビーブ、霊廟

・対象とする問題の概要

インドネシアのイスラームは、「ワリ・ソング」と呼ばれる 9 人のスーフィー聖者によって広められたと信じられており、スーフィー達の知的営為であるスーフィズムこそインドネシアのイスラームの核であると言える。またスーフィズムを重んじる伝統派ウラマー組織「ナフダトゥル・ウラマー」は、イスラーム過激派の暴走からムスリム社会を守る「インドネシアにおけるイスラームのシートベルト」と評され大きな影響力を誇る。

しかしながら、インドネシアのスーフィズムについて実践と思想をスーフィズム思想史全体の中で捉えようとする試み、特にイスラーム寄宿学校プサントレンで用いられているアラビア語で書かれたイスラームの教科書「キタブ・クニン」やインドネシア成立以前に活躍したジャワ系のウラマーにおけるスーフィズム思想をアラブやトルコなど他の地域のスーフィズムと対照し研究することに関しては十分に行われているとは言い難い。

・研究目的

現在イスラーム世界各地でイスラーム過激派が活動し、いくつかの地域では出口の見えない内戦へ突入している。一方インドネシアは世界最大のムスリム人口を抱える国民国家でありながら、自由な宗教市場の中で穏健な中道派イスラームが多数派の支持を得ることに成功している。そのインドネシアの穏健派イスラーム思想の精神的支柱と言われているのがスーフィズムである。従って、インドネシアのスーフィズムとその受容の在り方を学ぶことは、過激派とは異なるイスラームの豊かな精神的土壌とそれを耕すムスリムの営みを知ることにつながると期待できる。筆者は本研究の中で、グローバルなイスラーム世界を横断するスーフィズム思想の解明の第一歩として、インドネシアのスーフィズムの思想展開を地域実践と思想両方の側面から考察していきたい。

・フィールドワークから得られた知見について

筆者は中央ジャワの中でももっとも古くからイスラームを受容し、ワリ・ソングの内二人の廟が存在するクドゥス市をフィールドに設定し、①クドゥス市に存在する聖者廟における参詣者の実態、市民の間で伝統と見なされているイスラーム的儀式の調査、②プサントレンの先生（キアイ）やイスラームの預言者ムハンマドの子孫とされる「ハビーブ」へのインタビュー、③プサントレンの教科書及びイスラーム学系出版物の収集を中心に行った。

聖者廟については、まず聖者スナン・クドゥスの廟を訪問した。スナン・クドゥス廟の前では数十人のグループがいくつかできており、皆熱心に祈願を立てていた。もう一方のスナン・ムリアの廟は山の中腹に存在し、廟の周りには参詣者向けの宗教グッズや食べ物を売る屋台がびっしりと並んでいた。

イスラーム寄宿学校であるプサントレンでもスーフィズムの実践が盛んに行われていた。故人を弔う「マナーキブ」、「タフリラン」という儀式では、スーフィー教団「カーディリー教団」の祖であるアブドゥルカーディル・ジーラーニーへの賛歌が用いられるなどクドゥス市のムスリム社会にスーフィズムが隅々まで染み渡っていることを確認することができた。

またクドゥス市のウラマーからの紹介でプカロンガン市在住のハビーブ・ルトフイー師にインタビューを行うことができた。ルトフイー師は預言者ムハンマドの家系であるハビーブの一人で、絶大なカリスマ性を誇っている。彼とはアラビア語でスーフィズムについて様々な意見を交わすことができたが、会話の中で「アラビア語を話せる者とでないイスラームの深い話はできない」と語ったのが印象的であった。これはインドネシアのイスラーム研究においてアラビア語が重要な「武器」となることの証左であろう。

さらに文献学的調査の準備のためクドゥス市のプサントレンを回りイスラーム教科書と著名な思想家の著作の収集にも努めた。

・今後の展開・反省点

今回の調査ではクドゥス市を中心としてプサントレン、聖者廟を巡り、キアイやハビーブなどのイスラーム指導者と意見を交わすことで、現地のスーフィズムを巡る言説と実践の在り方を知ることができた。スーフィズムは確かに中央ジャワのムスリム社会に染み渡り、現地のムスリム達の信仰生活に潤いをもたらしている。現地での調査はインドネシア語とアラビア語で行ったが、日常生活で市民はジャワ語を話しており、より内部に踏み込んだフィールドワークのためにはジャワ語の習得の必要性を痛感した。今後は、フィールドで収集したインドネシア語、アラビア語、ジャワ語のイスラーム思想書を読み込み、インドネシアにおいてスーフィズムが思想家達の間でどのように理解され、発展していったかを明らかにしていきたい。



ハビーブ・ルトフィー師へのインタビュー



プサントレンの授業風景



スナン・クドゥス廟とアクサー・モスク



新生児を祝う儀式。イスラームの神アッラーと預言者ムハンマド、スーフィー聖者アブドゥルカーディル・ジーラーニーに祈祷が捧げられる。